「北方領土返還要求中央アピール行動アピール行進」出発式における
堀井学外務大臣政務官挨拶文

本日御参集いただいている皆様におかれましては、日頃から北方四島の返還に向けた環境整備、国民世論の啓発と結集のため、様々な活動に御尽力いただき、心から感謝申し上げます。

本12月1日から遡ること72年前、第二次世界大戦終結後、当時の安藤石典(あんどう いしすけ)根室町長がマッカーサー連合軍最高司令官に対し北方領土返還を求める陳情を行いました。日本固有の領土である北方領土の問題が今もなお解決されておらず、日露間の平和条約が締結されていないことは誠に遺憾です。安倍内閣総理大臣からも常々申し上げているとおり、高齢とされている元島民の皆様の故郷である北方四島の一日も早い返還実現に向けた思いを胸に北方領土問題の解決に取り組まなければならないと考えています。

本年9月に行われた日露首脳会談では、北方四島における共同経済活動に関し、早期に取り組むべき5件の候補が特定されました。10月には官民現地調査団が北方四島を再び訪問し、有意義な調査を行うことができました。また、11月のベトナムAPECの際の首脳会談では、双方の法的立場を害さない形で、来春に向けてプロジェクトを具体化するための検討を加速させることで一致しました。9月には、首脳間の合意に基づき、初めて航空機による特別墓参が行われ、日露両国民間の信頼を深める意義がありました。そして11月24日の日露外相会談でも、外相同士が北方領土問題について率直に議論を行いました。

政府としては、北方四島の帰属の問題を解決し、ロシアとの平和条約を締結するとの一貫した方針の下、引き続き精力的に腰を据えて交渉に取り組む決意です。

政府がロシアとの交渉を強力に進めていく上で、本日の行進のように、根室管内の皆様が中心となって全国民に訴えかけることで、北方領土返還要求が日本国民の総意であることを明確に示し続けることが重要です。北方領土問題の解決に向け、力強い御支援と御協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

平成29年12月1日

外務大臣政務官 堀井学